

答 辞

第74期生代表 久場島 清雅 津波 美幸

冬の寒さも和らぎ、春の暖かな日差しを感じる季節になりました。

三年前の春、真新しい制服に身を包み、高校生活への期待と不安を胸に、この体育館で入学式を迎えました。これまでの三年間を振り返るとたくさんの思い出が、つい昨日のこのように思い出されます。

入学して間もなく行われた新入生歓迎球技大会。私たち新入生相手に全く手加減をしない先輩方に圧倒されましたが、この行事を通してクラスの仲がだんだんと深まっていきました。知高祭では、各クラスが工夫を重ね、舞台や展示、模擬店など、大いに盛り上がりました。それぞれが自分の役割を果たし、クラスの皆で協力しながら取り組んでいく過程を通して、最高の思い出にすることができました。そして、知念高校最大の行事である親睦運動会では、団を中心として創作ダンスや衣装の製作に取り組みました。学年の垣根を越え、同じ目標に向かって取り組み、努力することで言葉には言い表せないほどの充実感や達成感を感じることができました。多くの行事を通して、皆と最高の思い出を作れたことは私たちにとってかけがえのない宝物です。

また、部活動では多くのことを経験し、自分自身の弱さと向き合うことができました。高校での部活動は想像以上にきつく、何度も辞めたいと思った時もありました。そのような時は、励ましてくれるチームメイトや愛情を持って支えてくれる家族、情熱を持って指導して下さる先生方に、試合に勝って恩返しをしたいと強く思い、自分自身を奮い立たせました。部活動に取り組む一方で、私たちは進路実現にも力を入れました。早いうちから、志望校を決め、日々の授業や早朝・放課後講座、模擬試験や面接練習などに励みました。学習面や部活動で仲間と競い合いながら、成長することができたことは私たちにとって大きな財産となりました。

これまで私たちに時に優しく、時に厳しく指導して下さった先生方。今、振り返れば褒められたあの日も、激怒されたあの日も、そのどれもが先生方からの温かい激励だったと痛感しています。普段の授業をはじめ、数多くの行事を円滑に行えたこと。そして、三年に進級してからは、私たち一人一人に親身になって進路指導をして下さったこと。担任の先生をはじめ、多くの先生方に大変お世話になりました。本当に感謝しています。

そして、どんな時も深い愛情を注ぎ、慈しみ育ててくれた両親、協力してくれた家族。毎日の弁当や送迎。何より私たちが健康で元気に過ごせるよう、万全な環境を整え、学校に送り出してくれたこと。私たちが笑顔で学校生活を送れたことは、両親、家族の支えがあってこそであり、この上ない感謝の気持ちでいっぱいです。時には心ない言葉で傷つけたことも数多くあったと思います。そのような時でも優しく温かい目で見守り、一番近くで私たちの背中を押し続けてくれたこと。それは常に私たちの大きな支えとなっていました。本当にありがとうございました。まだまだ未熟ではありますが、これからもよろしくお願いします。

後輩の皆さん、先程は素晴らしい送辞をありがとうございました。皆さんはこれから楽しいことだけでなく、苦しいことや辛いことに直面するかもしれません。しかし、そのような時は立ち止まって周りを見て下さい。皆さんを支えてくれる友人や先生方、家族がいます。今、共にいる仲間を大切にして、伝統ある知念高校を更に発展させ、新たな歴史を刻んで下さい。

共に笑い、共に汗し、共に涙した級友たちとも今日でお別れです。思えば長いようで短く感じた高校生活。平凡な一日に思えるような何気ない毎日こそ、大切な一日。数々のドラマが繰り広げられた、ここ知念高校で過ごした日々は、どれもかけがえのない思い出として、それぞれの胸に刻まれていることでしょう。これまで培ってきた絆は永遠に消えることなく、この先の未来できっと私たちの心の支えとなるはずです。これから私たちは、それぞれの道に向かって進んでいきます。三年間で学んだことを次のステップでも活かし、なりたい自分になるために努力を重ねていきます。学ぶ心、挑戦する勇氣、謙虚と感謝の気持ちを持ち、それぞれの目標に向けて人生を歩んでいくことを誓います。

最後になりましたが、本日、ご多忙の中、私たちの門出を祝い、ご臨席を賜りましたご来賓の皆様、校長先生をはじめとする先生方、並びに保護者の皆様に、卒業生一同心より感謝を申し上げます。皆様のおかげで素晴らしい高校生活を送ることができました。その上、このような盛大な卒業式を挙げていただき、本当に私たちは幸せです。ありがとうございました。皆様のご健勝と知念高校の更なる発展を心よりお祈り申し上げます、卒業生代表の答辞とさせていただきます。

平成31年3月1日